BOOK
ブック

ブルデューは、趣味がもたらすテイスト（センスの良さ、悪さ）によって人々は差別化され、その文化資本（金銭ではなく、学歴や文化的素養）によって階級が再生産されると述べた。北田氏らは、それをメインテーマとして批判的に検討し、「平成時代の若者文化」としてのオタク、サブカル等においては、ブルデューのようなテイスト論は成り立たないこともあると論ずる。

最終章では、「二次創作」にコミットする男性オタクと女性オタクを、作品の読み方（受容姿勢）という観点から分類して対比する。そのうえで、腐女子（BL：男性同性愛の漫画や小説を好む女性）をフェミニズムの表れととらえ、「きわめて洗練された形で、それぞれの方法で男性中心主義的な世界観に異議を申し立てている」と評価する。その点で、「アニメもBLもどうでもいい」という考えに対しては、政治的連帯・社会的な関係性構築の資源の存在から目を背けることになると警告する。

評者は考える。たしかに、オタク、サブカルなどの趣味は、他者との差別化だけでなく、逆に紐帯としても機能している面があり、今や軽視できない。クラブ通いの友人を得た地方出身の若者の東京定着率が高いなどの効果も他の調査で明らかにされている。だが、教育においては、そのような連帯志向だけでなく、自己の確立（文化資本による差別化とは異なる）と、「異質な他者との交流と共有」を同時に追求する必要がある。オタク、サブカルを含めた生徒たちの趣味を尊重しつつ、それが望ましい個人化と社会化の契機になるよう働きかけ、新しい価値の創造をめざしたいものである。

（聖徳大学教授・西村美東士）

社会にとって趣味とは何か
文化社会学の方法規準

北田暁大、解体研　編著
1944円　河出書房新社
☎03-3404-1201